


世界樹
が
醜い本3

エロ本

十八歳未満閲覧購入禁止



「お姉ちゃん急に女の子の日は
来ちゃったみたいで……」
代わりにボクがと部屋の前で
宿屋の少年は切り出した。
折角宿のお得意様になって
大人気だと言う裏サーピスを
頼んだ君は消沈する。

「ボクだつてその手の人たちには
好評なんですよ？お前のおしりまんこは
女よりいいって……」
そういつて屋間の少年とは打つて変わった
妖艶な笑みを浮かべると
上着をめくつていく少年。
君は言われるままこの少年を抱いても
いいし、そのまま返しても構わない。

ぎしぎしと音を立て軋むベッドの上で
小柄な少年は君の肉棒に貫かれ
荒い息を立てている！
こういつた事には慣れていられるらしく
自ら腰を動かして君から快感を
搾り取るうとしていられる。

確かにきゆうきゆうと絞る少年の
肛門は君の肉棒のツボを捕らえ
離してはくれない！
どうですか？気持ちいいですか？
少年の依頼したクエストをこなした
ことある君は自分に懐いて
くれている少年への背徳感で興奮し
更に動きを早める。



とうとう空が白み始めてしまった！
君は少年の中にどれくらい注ぎ込んだのか
わからないほどだ。少年は熱心に可愛いお尻を
振りながら「お掃除」を続けている……
「ボクも「予約」は一杯なんですけど……」
君の股間に潜りながら少年は改めて切り出す。

「ボク、冒険者さんが始めてココに
来た時からいいなって思っていたんです。
これからもおねえちゃんじゃなくて、
ボクを呼んでくれれば……」
少年は意味ありげに笑いながら上目遣いで
君を見てくる。今日はもつとすこいですよ！
……君は今夜も少年を呼ぶと約束しても良いし、
冒険に集中しても構わない。



「アナタ聞いてるカッ！
このドコガだらしないオッパイカッ！
君は羽ばたく蝶亭の主人に誘われ
二人で酒瓶を空けてる間にかなり
酔ってしまっている
二人とも気が大きくなり
意識の手綱を取るのでいっばいだ。」

「据え膳クワヌハナントヤラと
アタシ聞きマス！男だったら
覚悟を決めるんだ！」
雑談は次第に下の方向に行き、
店主は胸を出して迫ってくる！
君はこれを一夜の酒の席での事だと
割り切って楽しんでいいし、
紳士的に店主をなだめてもいい。



「ドウカナ？ミンナマシユマロ
みたいーて褒めてくれるんだ！
？ミンナッテ……やだナーアタシ
そんな安い女じゃないデス！
パイズリ初めてデス！」
店主は口の割には手馴れた手つきで
君の肉棒をその豊満な胸を使って
しごき上げる。


ミンナナー？

…とはいえ店主の胸は弾力も
触り心地も満点で君は
気を抜くと出してしまえそうだ！
…君はこのまま一発目を
出してもいいし、今度は君から
攻めても良い。

…おおつと！君が精を放つ瞬間
店主は君を抜き出した！君の精は空しく
弧を描いて店主の背中に降り注ぐ。
「アッハッハ、ポウケンシャーは中に
出したかったデスカ？残念ダナ！
もつとおねーさんポイントを貯めれば
出してもいいデスヨ！」

娘のように悪戯っぽく笑う彼女は
続けて切り出した。
「おねーさんポイントを貯める方法を
アナタだけにお教えシマス。このまま朝まで
アタシを抱くんダ！更に優しくするとモット
好きスキーになれると思ひマス！…なるヨ？
サアイザユケ！ポウケンシャー！」
…君は彼女の言葉を信じてもいいし、
一夜の戯言と思ひ信じなくてもいい。





「ちよっと姉さん！何で私までこんな事しなきゃならないのよ！」
「だから言ったである、酒場の小娘と戯れで作ったH券が外に出回ったらしくての良かったではないか、馬の骨に渡らなかつただけでも喜ぶべき事じゃぞ？」
「だからなんで私まで？」
「その券は二枚あるからのう」


騒がしく漫談を続ける商会の姉妹二人に君は声を掛ける。
「すまんの、普段扱う物とは勝手が違うでな」
「冒険者相手じゃ玉の輿にも乗れないじゃない」
君はちんちくりんで銭に汚い姉から味見をしても構わないし、胸の大きな愚妹を楽しんでも構わない。

「あんまり勝手に動くでない！お主と我との
体格差というものを考えんか！」
姉の方を選択した君は着物を脱いだ彼女の
細さに驚きながらも小柄な彼女の小さい瞳の
感触に夢中になる。
「全くこれだから冒険者は…少しはオナゴに
合わせた優しくせんか！」

ネイピア姉に怒鳴られて気が付く君であったが、
彼女の細い体や、突く度にゆらゆら揺れる
装飾品の数々、普段の彼女からは匂わせない
女の香りを堪能している内に頭の奥が
痺れてくる。
君はこのまま欲望に任せて
激しく動いてもいいし、彼女を気遣いながら
この時間をゆつくり楽しんでもいい。

妹の方を選んだ君は彼女の
豊満な体を丹念に味わった！
「ほら、深都ってあんまりそういう事
する機会事態が無いのよね。
だから本当に久しぶりで……」
そういう彼女は既に割り切った感じで
君との情事に集中している！

「お金持ちもいいけど冒険者さんの
遅いのも癖になっちゃうわよねっ」
彼女は打ち付けるリズムに合わせて
嬌声を上げると何回も達していく。
君は彼女にこのまま付き合ってもいいし、
きりのいい所で出してしまっても
構わない。



「うむだから根元まで入れようとするのはやめい！そこで我はいっぱいじゃ！」
「あら姉さんが弱音を吐くなんて珍しい、ホラ、こつちもつと動いて！」
二人同時を選んだ君は大変な目にあっている。姉はもつと優しくしろと煩いし、妹は妹でもつともつととせがむ中、君は二人に気を使い自分が楽しむ所では無くなっている。

「うう、恨むぞお主、折角なら気持ち良くなるまでしてもらおうかのう」
「その意気ね、可愛らしい姉さんなんて見るのは久しぶり！ねえあなた、もつと出来るわよね？」
このままではチケットの使い損だ！君がシノピなら分身してもいいし、ピーストキングならば獣を召還してもいい。

ああと！
君は囲まれてしまった！
…逃げられない！
ネイピア妹のねちりとしたフエラ！
…逃げられない！
ネイピア姉の細かく動くフエラ！
…逃げられない！
姉妹のWフエラ！
君は死んでしまった…



君は迷宮で彷徨っていた少女を
保護している。少女は何もかもを失った
顔をしており、その身なり、様子から
冒険者の生き残りである事を察する。
君はこの少女を自分のギルドに誘うが
彼女は無気力に首を横に振るばかりだ。

君のギルドのリーダーは保護して
やっている以上何らかの恩は返すべきだと
裏がありそうな口吻で少女に接する。
…君はギルドを抜ける覚悟でリーダーに
楯突いてもいいしリーダーの言う事も
一理あると少女に詰め寄っても良い。

宿の一室むせ返るような熱気の中
ギルド全員で少女を囲んでいる。
全員冒険から帰って間もなく
溜まりに溜まった男達だ。
事を察した少女は諦めたような
顔をしていたが特に抵抗する事も無く
メンバーのなすがままになっている。

名前はなんていうの？
「カナエです……」
こんな可愛い子が一人でどうしたの？
あつ、もしかしてパーティー全滅しちゃった？
……
不躰なメンバー達の質問に顔を曇らせる
カナエ、君と目を合わせるその瞳には
何かを哀願するような色が見える。
君は少女を犯すメンバーの輪の中に入ってもいいし、少女の眼差しに何かを感じ
かづくで止めさせてもいい。

メンバー達はカナエの細い体に我先にと飛び掛り無茶な要求をしている。両方の穴に入れられて苦悶の表情を浮かべるカナエ。突き入れられる度に細い金髪がリズムカルに飛び跳ね男達の嗜虐心を誘う。気持ち良いかと尋ねるリーダーに「気持ち良いです、おちんちん気持ちいいです」眉を歪めながら答える少女。

そのうち少女は全てを諦めるとこの状況を受け入れ始める。口調は男達を喜ばすような物に変わり鼻息も荒くなってきた。リーダーは調子に乗ったのか、一人冷静な君に先の冒険で手に入れた女性に特別な作用を促す茸を与えるように命令する。君は言われるままこの少女に茸を与えても良いしこの部屋を出て行っても構わない。

ああああ

あが

あ

あ

「何をされるんですかっ!?!
止めて下さい冒険者さん!」
瞬く恒星亭の少女に誘われたと
勘違いした君は後ろから押された
久しく離れた文化からの違いで
こうなつた事は大変に遺憾だが
冒険者の血か男の性かももう止まる事は
出来ない。

小柄で幼さの残る彼女を押さえつけながら
特殊な衣服の隙間から自らの肉棒を
突き入れると彼女は痛みで涙を流す。
深都では「そういう事」に対する知識は
殆ど無いらしく少女は不思議な顔をしたまま
なすがままにされている…!
君は彼女に性の喜びをとつくりと
教えてもいいし不憚に思いこのまま
止めてしまってもいい。

暫く後男と女の匂いでむせ返る
部屋の中で少女は喜びの声を上げている。
深都の不思議な作用か個人の素養か
少女の順応性は並外れており
一刻前まで痛みを耐え涙で頬を
濡らしていたのが今や君の肉棒を
懇願するほどまでである。

「さすが深王様の見込まれた冒険者さん、
こんなに気持ちの良い事も
ご存知なんですね。こんな事は初めてです」
もつともつと小振りの尻を横に
振りながら少女は懇願する。
君は少女の願いに応えるべく
腰を振り続けてもいいし、
無垢な少女を汚してしまった罪悪感から
その場を離れてもいい。



君はちよつとした興味本位から手を出す
羽ばたく蝶亭の店主は君をガツチリと
くわえ込んで離す気配は無い！
「赤ちゃん出来ればこの街離れても
チヨクチヨク顔見に来てくれるダロ？
今日はアタシ産む気満々だ！」
どうやら彼女は産む気満々の様子だ。
君は諦めて彼女の中に放出してもいいし
試しに抗ってみてもいい。

こんにちわー内々けやきで一す
世界樹3楽しいですよ僕もモリモリ潜って
モリモリ殺されてます。いやまあ前回前々回の事もあるんで
そんなに死ぬ数は減りましたがそれでも死にます。
あ、花びらが表れた時はもう速攻で逃げたよ！内々けやきです。

今回色々押し迫るものがありまして
それぞれこんな漫画が描きたいなあというのを紙芝居形式で
並べてみましたがネイピア姉妹とか描いて楽しかったので
また何かの折には漫画で描くかもしれないです。

あ、でも宿屋の息子も可愛いよね、孕ませたいよね。

ママさんも可愛いよね、孕ませたいよね。

世界樹はNPCキャラがどれも可愛くてしょうがないので
なんかいずれ1~3 NPCキャラ総集合で本とか作りたいですねえ。
まあシリカさん描きたいんですが。

あ、単行本、出ます！ 辰巳出版から「恋愛女子は前しか見ない！」
発売中です是非買って見てやって下さい作者喜びます。

一般お仕事もモリモリ増えて行きますので皆様見かけましたらば
合わせて宜しく申し上げます。

・今回の名プレイ珍プレイ

カナエがあんまりシヨタ忍者の事を好いていたのでちょっと意地悪してシヨタ忍者に
教えてあげたら なんか ああなって 凄いや悪感。

深王の依頼を断ったらサブクラスもうしてくんないんじゃないかとか思って依頼を
受けた僕は超小物。街の人に色々言われるたびに胸にグサグサ来るよ！

発行日 10/4/29

発行 ブロンコー人旅
内々けやき

印刷 ねこのしっぽ様
ご意見ご感想連絡先は

<http://park11.wakwak.com/~uma/>

<mailto:keyaki0202@yahoo.co.jp>



世界樹
が
面白いよ本3
下巻

十八歳未満閲覧購入禁止